

■ JIPAT 第11回通常総会記念講演

グエナエル・ニコラ氏の世界

如何にもヨーロッパを思わせる、黒をラフに着こなしたグエナエル・ニコラ氏がステージに立っていた。そのニコラ氏を紹介した司会者の型どおりのトークが妙に硬く、そのままフランスと日本の文化の違いかと頭を掠めているうちに、ニコラ氏のフランス語訛りを残しながらも流暢な日本語で、講演が滑り出していた。肩肘の張らない語り口で、いきなり14年前日本に来た頃の25歳の自分は、「インテリアかインダストリアルかグラフィックか」と進む方向を決め兼ねて



いた迷いの心境から語りはじめた。そして、日本の中でもひととき「東京」のスピード感やエキセントリックなところに魅力を持ったこと、それとは対照的に、「無」を意識している日本の芸術にも興味を感じたことなど、日本に対する考え方の原点をはっきり語っていた。東京での最初に引き受けた仕事が仏壇のデザインであったことからニコラ氏の取り組みに、挑む力強さを感じた。要素としては素材を始めからリンクさせる必要をポイントに挙げていた。ミヤケ・イツセイとの出会いなどの話も含め、いつしか、闊達な解説に引き込まれていった。スライドショーによるプレゼンテーションから次々と溢れ出る変幻自在な「かたち・デザイン」、そのスクリーンには、MEプロジェクト、SONYショールーム、エステサロン、テレビジョン、家具、フレグランス、建築空間、などなど、幅広い分野での活躍が披露された。その完成度をより確かに担っている日本のテクノロジーの強さを高く評価しており、観ていて日本人として誇らしさを感じた。とりわけ大切にしている点は「クライアントのコンセプト」で、このコ

ンセプトがクライアントの中で明確でない場合は、ニコラ氏自身が持つ考え方をクライアントに提案する方法を行っているとのことであった。いずれの場合も必ず模型を作り、シュミレーションを丁寧に実行し、納得いく結果を出せるように情熱を注いでいること。そして、そこでの協力者である工場及び製作現場の人々との交流を非常に大切に扱う考え方に、魅力を感じさせられた。特にこの点は、金銀箔・和紙などを、日本の伝統的な加飾技法を用いてインテリアに活かす制作を微力ながら続けている私にとって、大変嬉しい接点であった。ただ、予算やかかる経費は、どのように処理されているのか等の点には触れておらず、お尋ねしたいところでもあった。工芸の持つ日本の美の力をニコラ氏のデザイン力と情熱、深いロジックの渦の中で発揮してみたいと少々乱暴な思いに駆られた。最後に、ニコラ氏の述べられた日本人との会話から、彼らは「頑張ります」とよく言いますが、本当は『やるかやらないか』なんですよ。と結んだ言葉が、今も胸に響いている。

(齊藤純子 コムデザイン工房)

■ 松下電工 汐留ミュージアム

建築家 清家清展「《私の家》から50年」開催のご紹介

去る4月8日、日本の代表的建築家・清家清(1918~2005)は惜しまれつつ86年の生涯を閉じました。日本建築学会 建築博物館(三田)と併設される本展覧会はその清家清を取り上げる初の取り組みです。博学で多彩な趣味を持ち「人生を楽しむ達人」でもあった清家清の人間の魅力とそこから生み出された珠玉の作品群を多様な資料を用いて紹介します。特に《私の家》(1954年)等では暮らしをつぶさに体感して頂ける展示を試

みます。(展示内容構成)

1. 《私の家》(1954+)へようこそ
2. 清家清の原点~青年期
3. 清家清のごと
4. 多面体・清家清 など

会場：松下電工汐留ミュージアム(汐留松下電工ビル4F)

期間：2005年7月23日(土)~9月25日(日) 休館日：9月19日を除く毎月曜日、8月13日~15日

開館時間：10:00~18:00(入館は

17:30まで)

お問合せ：NTTハローダイヤル03-5777-8600

入館料：一般500円、シニア(65歳以上)400円、学生300円、小中生200円、障害者手帳お持ちの方は無料

主催：松下電工汐留ミュージアム・建築家清家清展実行委員会

汐留ミュージアム URL：www.mew.co.jp/corp/museum/

(松下電工 JIPAT 法人会員 岡田)

■ 『会員交流 in 木曾・小布施・松本』の旅

梅雨真っ只中の6月25日(土)・26日(日)の2日間に渡り信州を旅した。当日は、数日間続いた梅雨空が嘘のように朝から晴れ渡り、30名の参加者の気分は皆一様に盛り上がった。バスは新宿を出発し、一路木曾奈良井宿にある「木曾アルテック社」へ。豊かな自然と良質のムク材に囲まれてゆっくりと時間が流れてゆく感覚は、やはり旅の醍醐味である。おかげでちょっとのんびりしすぎて、あわてて小布施に。小布施ではジョン・モーフォード氏がインテリアを手がけた「蔵部」(寄り付き料理屋)を仕掛人のセーラ・カミングス

氏に「台風娘」の渾名どおり、エネルギーに語ってもらった。2日目は、「安曇野高橋摂郎記念美術館」の静謐な作品と空間を見学するところから始まり、ひきつづきオープンしたばかりの古民家再生プロジェクト「蔵久」(デザイン：橋本夕紀夫氏)を見学。普段は見ることのできない、まだ手つかずの建物(二期工事予定)にも足を踏み入れることができ、そのピフォーアフターのギャップの大きさに息を呑んだ。そして最後は昨年オープンしたばかりの「まつもと市民芸術館」(デザイン：伊東豊雄氏)で全行程を締めくくった。中部IP協会の右高夫妻とはここで

別れ。とにかく盛りだくさんでちょっと慌ただしかった旅は、心地よい疲れと感動と余韻を残しつつ2日間の日程を無事に終了した。(佐藤 勝)



■ THONET & COR 2005 新作展示会 & パーティのお知らせ

ドイツの最高級家具メーカー THONET (トネット) と COR (コア) の新作展示会を、AIDEC・東京ショールームにて開催いたします。特に今年は「日本におけるドイツ年 2005」やドイツ W 杯最終予選など、例年以上に「ドイツ」というキーワードが躍り、マスコミ各社もドイツブランドの特集を組むなど大変注目されています。また、初日の夜はパーティを開催します。梅雨も明けて夏本番の宵、本場ドイツでも珍しい希少なビールとフードによる、一夜限りのプレ

ミアム・ビアガーデンが出現予定。(雨天決行)

皆さまのお越しをお待ちしています。

展示会期間：7/28 (木) ~ 7/31 (日)

11:00 ~ 19:00

パーティ概要

[CONCEPT] One Night Premium Beer Garden at MINAMI AOYAMA

[DATE] 2005/7/28 Thu

[TIME] start 18:00- close 20:30

[PLACE] AIDEC Tokyo Showroom

[ADDRESS] 東京都港区南青山

2-24-15 青山タワービル

[TEL] 03-5772-6330

[URL] www.aidec.jp

(商品部 広報担当「水野 巧也」)



■ 3分間のタイムスリップ

愛知万博で7月4日に1,000万人目の入場者がダイヤモンドを贈られたそうで、そのニュースをみて今回は時代を少し先走りますが万博についてのタイムスリップ



したい。博覧会の父と云えばイギリスのアルバート公(ビクトリア女王の夫君)である。公の出身はドイツでビクトリア女王とは、いと同じ、ヨーロッパにおいては同じの結婚はごく普通のものである。

かれはドイツ人らしく科学や芸術を産業や実生活に応用することこそが最も重要な課題と考えていたようです。1851年に産業工芸博覧会をロンドンで催すということで、大英帝国が世界最大の繁栄を誇るPRになると、建設設計図は234通からアルバー

ト公自ら選択してガラスと鉄骨のあの水晶宮殿が誕生した。1851年5月1日ビクトリア女王始め皇室一家の列席のもと、大博覧会は華麗な幕を開けた。「近代科学と人智の発展の栄光を広く一般に知らせ、人類の輝かしい未来、世界平和の理念見せる」このメッセージはその後の万博の柱になっています。3月25日から9月25日まで開催されている愛知万博、(正式名称は2005年日本国際博覧会)は、環境に配慮したエキスポ・地球大交流を目指すエキスポ・市民が参加するエキスポ・IT時代のエキスポを、4つの柱にしており、人間は自然の一部であるという原点から、21世紀に求められる新しいエネルギーシステムやCO2削減などの最先端の環境技術の導入に挑戦し、環境負荷の低い循環型社会のモデルを提示する。このことを重要課題に開催されています。第1回から154年経てアルバート公の掲げた「Art of Life」「人生の「わざ」と智慧」を、生活に応用するというメッセージはここに見事に継承されております。

■ 途中下車

「良い家具とジレンマ」<株式会社三越環境サービス工場見学会>

一昨年から始まったJIPAT-[I's]企画の見学会は、不定期で家具工房や法人会員であるメーカーのショールームなどで開催されていましたが、今年度の初回は7月2日、株式会社三越環境サービスの工場で行われる運びとなり、約20名の参加者が集まる見学会となりました。今回訪れた大田区東六郷は、住宅併用の町工場が残るものの年月を経て住宅地に変貌しており、三越工場の周辺においては住宅や学校などに囲まれ、工場の立地条件としては厳しい環境の場所でした。しかし、エンドユーザー対象のショールームを併設するなど外に開かれた工場は、一見しては工場の趣を感じさせず周辺の環境になじむよう努めており、さらに騒音・振動・粉塵・臭気など工場が発生源となる問題を克服し大田区が認定する「優(ゆう)工場」=「環境に配慮している都市型工場」にこちら側も変貌を遂げることで共存関係を継続しているようでした。

見学会はまず三越加工部(のちの三越製作所)創立以来のなりたちやプロジェクトXなみの偉業を話していただくことから始まり、職人の技量の話へ・・・工場長曰く道具を見るとその人の技量がわかるとのことで、工場長が用意していた手のひらほどの小袋から自作の鉋(かんな)をいくつも取り出して見せてくれました。それらは驚くことに4cm程度のもので指で摘むと隠れてしまうくらいに小さなもの、なかには摘むことが不可能なため鉛筆程度の太さの柄を接続したものまで様々でした。私たちにはその道具をみて技量を計ることはできませんが、職人の家具やその装飾に対する熱意、良い物を作ることへの執着心を感じることができました。工場内は木材備蓄庫から家具の製作工程を追う順序で、機械が稼働しているなかを案内していただきました。その行く先で工場長は、「修理をして長く使用できるものであること」とも良い家具の条件の1つだと繰り返し、また、今秋はじまる迎賓館の改修に参加して家具の再生に携わると語る顔には旧友に再会するようなつかしきや巣立った我が子の働き

ぶりを見られる楽しみをわき上がらせており、もの作りに対する真摯な姿を垣間見れました。見学会の終盤、参加者から、現在の日本人は家具の価値をデザイン以外に「修理をして長い間使用できる質」のところに思い込ませるようになってきたという意見があがりましたが、日本人に限らず人は自分が嗜好するデザインのもの(家具以外も含め)が自身にフィットしていれば、それを長く使いたいと願うでしょう。現状では製作サイドが「修繕して再利用できる質のもの」を材料を吟味して作るにも市場で受け入れられる価格で提供できないというジレンマがあります。しかしそのジレンマから脱出させてくれるのは案外「デザイン」(デザインへの対価)であり、現在の日本人のデザイン指向が高まること・それを先導するデザインの創出こそが「質」の復権、工場長のいう「良い家具」につながると思います。今回の見学会は家具製作の知識のみならず、ものづくりの姿勢を学んだ良い機会であったといえます。

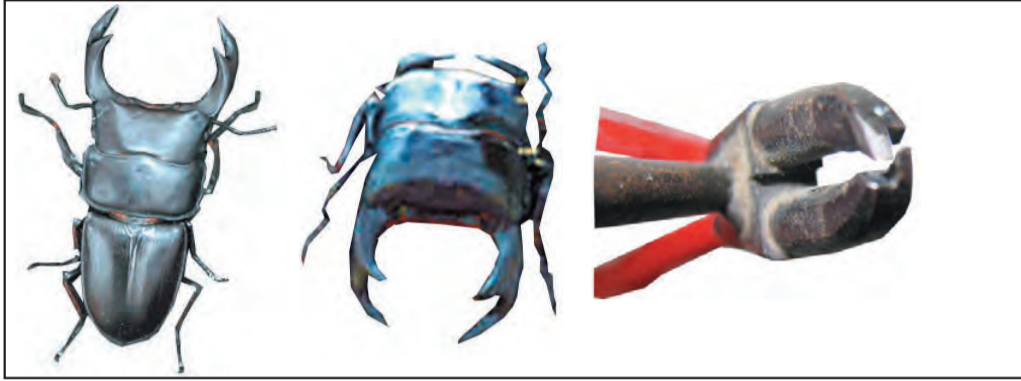
(JIPAT-[I's] 須藤)

■ 知って知らない道具作り

先ほど自宅に帰ると オス2匹、雌1匹がぐったりしています。寿命でしょうか・・・

何が悪かったのか考えられる原因を教えてください。ベストアンサーに選ばれた回答回答番号：1836869

…あとぐったり、ですが飼育環境はどうだったのでしょうか？くわがたもかぶとも、昼間は土の中にもぐって寝てます。飼育ケースに、土はいれていましたか？ないとストレスで、まいっちゃはずです。また、くわがたとカブトを一緒に飼育ケースにいれたいたりしませんか？特にくわがたは気性が激しいので、かぶとにはかなりのストレスになるようです。ペンチUPクワガタ前向きクワガタ後ろペンチUPクワガタ前向きクワガタ後ろ（狭いとなおさら..）結構デリケートですネ(^_^);



修理をしながら使い込んで行くお国柄がこのような道具を考えつくのだと思われます。日本の職人は非常に器用なので簡単なもので用が足りるようです。



ただ寿命も羽化して1~2ヶ月程度ですから、寿命なのかもしれません。世の中いろいろで、インターネットでの質問のやりとりです。このくわがたのファンも何百万人もいて、月間誌も出ているようで、今回はこのクワガタからヒントを得て作られた道具を紹介します。ドイツで考案され特許のペンチです。



■ 第4回 総務IPセミナー 開催のお知らせ

□IP法律ファイル・その4

■テーマ：IP業務に役立つ『設計・施工の紛争予防と紛争処理－I』

■開催日：2005. 7. 26（火）18時30分開会

■会場：INAX アーキプラザ8階

■講師：田辺克彦弁護士（田辺総合法律事務所・所長） <http://www.tanabe-partners.com/rinen/>

■会費：会員¥2,000 ビジター¥2,200

■定員：60名（申込順）

■申込先：FAXにてJIPAT事務局（03-3446-1417）

※申込書はホームページ News 欄からダウンロードできます。

設計・制作施工・販売・監理等、IPの日常業務における万一の紛争について予防と解決方法の勉強会です。講師の田辺弁護士は東京地裁調停員をしておりますので、IPに身近な事例をベースにした講義と受講者の質疑応答により、すぐに役立つ実践的セミナーです。

例えば、①クレームを付けられ設計料或いは工事代金・物品代金を支払ってくれない。②瑕疵の範囲が判らない。③設計監理の範囲は？④監理者は誰の代理人か。⑤契約書・発注書を交わさずに業務（施工）を完了したが代金の支払でもめている。etc、

特に中小の設計事務所や工務店・建築会社に時々発生するトラブルには役立つと思います。ゼネコンに発生するトラブルは甲・乙・丙工事の責任範囲の捉え方です。このセミナーでトラブルの事前予防策と万一の場合の解決方法のノウハウを勉強しましょう。

■ 新入会者

法人会員

(株)テ・タン

代表取締役 高塚 忠宏

155-33 世田谷区代田 6-6-9 アルコーブ下

北沢 1A TEL 03-5465-8911

(有)スチルソリッド 一級建築事務所

主宰 須藤 慶一

〒224-0062 横浜市都筑区 蔦が谷

12-4-601 TEL 045-942-9014

■ 編集後記

だんだんと情報がいただけるようになりました。感謝致します。さて、いよいよニューズレター、インフォメーションを今月からメール配信に移行するようになりました。私などFAXで頂くと電話が古いので、字はつぶれ読みにくく、またインクリボンですのでリボンの減りが心配で、メールになってほっとしている一人です。

メールアドレスのお届けのない方至急お知らせ下さいませ。(連絡先; JIPAT事務局 FAX 03-3446-1417 mail office@jipat.gr.jp 井上 常雄)

新鮮な商空間を
演出します。

MC147

MC152

MC173

サンメントの
みはしから
ポリウレタン製
装飾部材の
エレガンス
登場です。



MCFB02A-8

25mm幅UP用

360

220φ

300

ML924

330

200φ

310

ML914

本社ショールームに
すべてを展示
お手に取ってご覧ください。

■商品のお問い合わせは・・・

みほし 装飾

本社 〒351-0101 埼玉県流山市子3-26-1034

TEL 048-464-0384 / FAX 048-488

<http://www.mihosi.co.jp/>

e-mail: mihosgp@mihosi.co.jp